

ななつ星で輝く伝統の技（大川組子）

10月15日、豪華寝台列車「ななつ星 i n九州」が九州の雄大な景色の中を走りました。JR九州が運行する「ななつ星」は、博多駅を出発し、3泊4日で九州を巡るこれまでにない豪華な列車の旅です。



霧島を優雅に走る「ななつ星」
古代漆色をイメージしたという深いワインレッドの車体が緑に映えて美しい。

★ 豪華列車ななつ星

7両で30億円を費やしたという「ななつ星」の客室14室は、全てがスイートルーム。最大定員はわずか30名です。最高級客室「デラックススイートA」は、2名1室利用で一人56万6千円ですが、人気が集まっているといいます。

ヨーロッパの豪華寝台列車「オリエンタル急行」を目指したという車両は、木材が多用されていて、落ち着いた「和」の空間が演出されています。

★ ななつ星の仕掛け人

この「ななつ星」の車両をデザインしたのは、工業デザイナーの水戸岡鋭治さんです。水戸岡さんは、九州新幹線をはじめ、代表的なJR九州の車両や駅のデザインを手がけています。水戸岡さんのデザインの特徴は、木材や和紙などの「和の素材」をふんだんに用いる洗練された優美な空間。

★ 声がかかったのは

「ななつ星」の「和」の空間を演出する上で、重要な役割を果たしている組子細工。

その仕事を請け負ったのが、向島の木下木芸（木下正人さん代表）です。きっかけは、木下さんが、「ななつ星」専用ラウンジの壁の装飾に使うモールの加工を請け負ったことでした。特殊な技術が必要のため、業者が決まらなかつた時に木下さんが二つ返事で受けたことで水戸岡さんの目にとまり、木下木芸が「ななつ星」の建具を請け負うことに。

★ 正直、不安でした

世界的にも有名な水戸岡さんの仕事が自分にできるだろうかと不安を感じた木下さんの背中を押したのは、水戸岡さんのひと言でした。「大丈夫。誰もやったことがないことだから、できる、やるという思いが大事」

★ 本物を知る人

水戸岡さんの印象を木下さんは、こう語ります。「職人です。本物を知っている人」

細部にまでこだわりぬいた設計図。水戸岡さんは「できないところは、やり易いように変えていいから。全て任せる」と言って設計図を渡すそうです。「こう言われてしまうと変更できません」と木下さん。いいものを持って行った時に見える水戸岡さんの笑顔。それが見たくて木下さんはがんばったのだといいます。

引き渡し後、水戸岡さんから「手直しの必要がある」と突然呼びだされました。駆けつけても手直しするところはありません。がんばったごほうびに、仕上がった「ななつ星」を見せてくれるという水戸岡さんの粋な計らいでした。

★ 指示された材料は…

「ななつ星」で必ず紹介されるのが、ラウンジカー通路の電照掲示板の組子細工です。絵が入る予定でしたが、急遽、組子細工に変更されました。

指示された材料は、ウォールナット。堅い材質で主に家具の材料として用いられ、緻密な組子には向かないものです。完成品は杉材の柔らかい質感とは違った鋭い仕上りに。

★ 大川だからやれた

「ななつ星」の仕事は、自分一人で出来たものではありません。襖屋、家具屋、NC加工、材木屋、塗装屋…たくさんの仲間が手伝ってくれました。チーム大川で成し遂げたものです」と語る木下さん。

まさに「ななつ星」は大川の技の集大成といえるでしょう。



最高級客室「デラックススイートA」
ベッドボードにも組子があしらわれている。
寝室との仕切りには、組子をふんだんに使った引き戸
窓の障子には、組子をワンポイントで。

※ななつ星の車両・車内の写真は
JR九州提供



洗練されたホテルの
廊下を思わせる車内



ラウンジ通路の組子細工をはめ込んだ
電照掲示板(奥)



伝統的な文様と水戸岡さんデザインの文様を
組み合わせた電照掲示板の組子



乗客の手に触れるため
微細な金具で補強



ティッシュボックスの
デザイン画



客室内の小物も組子の技術を使用
ティッシュボックス(右)



この仕事のきっかけを語る木下正人さん
手前はモール(線形)